

# 新聞を身近に～ふれる・読む・表現する～

都城市立富吉小学校 教諭 玉木 克憲  
遠西 一子

## 1 はじめに

本校では、「自ら学び、自分の考えを表現できる児童の育成～国語科における読み取る力と表現する力を伸ばすための指導方法の改善～」を研究主題として校内研究を進めてきた。昨年度より、言葉の力を高める学習を単元計画や1単位時間の中に位置づけ、言葉の意味や働き、使い方に関する学習を充実させてきた。N I Eへの取組1年目となる本年度は、新聞を身近に感じること、新聞を読むことに興味をもつこと、そして新聞から得た情報に関する自分の考えや感想を伝え合うことを目指して、全学級で実践に取り組んだ。



【新聞記事を選ぶ児童】

## 2 本年度の取組

- 「新聞タイム」を月に1～2回朝の活動に位置づける。
- 学級のスピーチタイムで、気になった新聞記事を取り上げ、概要や感想を述べる機会を設けるようにする。(上学年)
- 全学級において、全教科等で1つ以上の実践を行う。



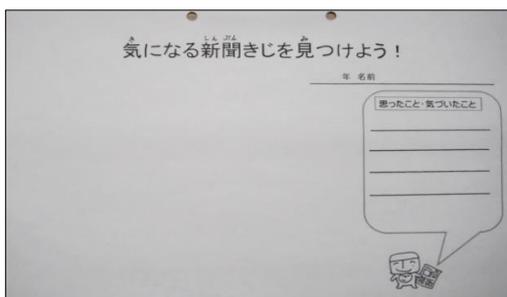
【新聞タイムワークシートの掲示】

新聞タイムのワークシートは、各学年で掲示した。友達ワークシートを見たり、以前のワークシートを振り返って読んだりする児童の様子が見られた。

## 3 実践の内容

(1) 「新聞タイム」について (全学年での取組)

- ① 新聞紙を一人1日分 (またはグループで数日分) 配る。
- ② 「気になる新聞記事を見つけよう (紹介しよう)」というタイトルで、気になった新聞記事の写真や小見出しを切り取ったものをプリントに貼り付け、感想等を書く。



【新聞タイムワークシート (下学年用)】

(2) スピーチタイムでの新聞活用(上学年での取組)

上学年において、朝の会や帰りの会で、1日1名その日のスピーチ担当児童が、気になった新聞記事を取り上げ、その概要や記事についての感想を述べる取組を行った。



休み時間などの空き時 【スピーチをする児童】間に新聞を手に取りスピーチの話題を探したり、前もって記事を切り抜いて準備したりする児童の姿が見られるようになってきた。

### (3) 各学年での授業実践

#### ① 第1学年の実践

##### 1 教科・領域等

国語 「新聞から知っている漢字をさがそう」

##### 2 ねらい

新聞の1面から知っている漢字を探し出す活動をすることによって、漢字への関心を高めるとともに、新聞に親しみをもつことができる。

##### 3 学習の流れ

###### 1 学習のめあてをつかむ。

選んだ新聞記事1面を見て、自分の知っている漢字をさがそう。

###### 2 新聞1面を見て、習った漢字や読める漢字を赤丸で囲む。

- 並べた新聞紙の中から、自分が使いたい新聞を選ばせる。
- 選んだ新聞を見て、知っている漢字に赤丸を付ける。

###### 3 丸を付けた漢字をプリントに書き出す。

###### 4 みんなが書き抜いた漢字を掲示して、どんな漢字が使われていたかを見合ったり、話し合ったりする。

##### 4 成果と課題

- 1年生は、読み仮名が付いていない新聞記事を読む経験はなかったが、「知っている漢字をさがす」という目的で見ることで、新聞に親しみをもつことができた。
- 知っている漢字がいくつもあったことから、「自分でも新聞を読めるかもしれない。」「新聞を読んでみたい。」と新聞に関心をもつ児童が増えた。

- 漢字を探すことが目的であったので、新聞の記事に関心をもつところまでは育たなかった。



【知っている漢字に印を付ける児童】

#### ② 第2学年の実践

##### 1 教科・領域等

国語 「かたかなで書くことば」

##### 2 ねらい

かたかなで書く言葉を、新聞を活用してたくさん集め、正しく書けるようにする。

### 3 学習の流れ

- 1 「かたかなで書くことば」の学習を振り返る。
  - プレゼンテーションを見て、かたかなで書く言葉を見付ける。
  - かたかなで書く言葉の種類を確認する。
  - 学習カードに、かたかなで書く言葉を書く。

##### 2 学習のめあてをつかむ。

新聞紙をつかって、かたかなで書くことばをたくさん見つけて、正しく書けるようになろう。

##### 3 新聞紙の内容から、かたかなで書く言葉を見付ける。

- かたかなで書かれている言葉を見付け、丸で囲む。
- 囲んだ言葉を短冊カードに書き写す。

##### 4 短冊カードに書かれた言葉を使って文を作る。

- 学習カードに文を作って、発表する。

#### 4 成果と課題

- 導入段階において、自力でかたかなで書ける言葉を書かせたことにより、新聞紙を活用することの必要性を感じさせ、児童の意識の流れに沿った学習活動を展開できた。
- 新聞紙を読むことで、外国人の名前、土地名、外国からきた物、動物の泣き声等の多数のかたかなで書く言葉に触れることができ、理解を深めることができた。
- 子ども新聞を使うことで、通常の新聞よりも見やすさを感じさせることができ、新聞を抵抗なく活用できた。
- 発展型として、かたかな以外の言葉(漢字、ひらがな)に関する活用も踏まえた学習活動も展開していきたい。

#### ③ 第3学年の実践

##### 1 教科・領域等

国語 「様子を想像して書こう」

##### 2 目標やねらい

新聞写真を見て、登場人物を設定して簡単な物語を書いたり、感じたことを詩に書いたりすることで、新聞に興味関心をもたせるとともに、想像や空想を膨らませて表現する活動を楽しむ。

### 3 学習の流れ

#### 1 学習のめあてをつかむ。

新聞の写真を見て様子を想像し、お話を作ったり、詩を書いたりしよう。

#### 2 新聞の中から、気に入った写真を選ぶ。

#### 3 選んだ写真をワークシートに貼り、想像したことを短いお話や詩に表す。

- ・ お話を書くときには、登場人物を決めて書くようにさせる。
- ・ 詩を書くときには、くりかえしのリズム、比喻などの表現の仕方を助言する。
- ・ 書いたものを読み返し、表記の正しさを確かめさせ、よりよい表現を考えさせる。

#### 4 出来上がった作品を友達と読み合い、感想を伝え合う。

#### 5 作品を発表し、本時の学習をまとめる。

### 4 成果と課題

○ これまでの新聞タイムでの取組により、新聞に対する興味関心が高くなっている。気に入った写真を選ぶ活動をスムーズに行うことができた。

○ 友達が興味のあるような写真や記事を勧める様子も見られた。

● 感じたことや想像したことを表す言葉で、言葉を選んでよりよい表現を探すことが難しいようであった。

● 表現を豊かにするためには、語彙を増やしていく必要がある。新聞を読むことが語彙を増やすことにもつながっていくと考えられる。

### ④ 第4学年の実践

#### 1 教科・領域等

国語 「くらしの中の和と洋」

#### 2 目標やねらい

「くらしの中の和と洋」の単元で学んだ引用・要約を使って、文作りをすることで、新聞記事を紹介することができる。

#### 3 活動の流れ（2時間）

#### 1 学習のめあてをつかむ

新聞記事を要約して、友達にしようかいしよう。

#### 2 要約・引用の意味を辞書を使って調べる。

#### 3 要約・引用が入っている文章を読み合わせる。

- 引用されている文にサイドラインを引く。
- 要約されている文にサイドラインを引く。

#### 4 要約・引用に使われる言葉を確認する。

引用：「○○によると、・・・」（○ページ）

自分の考えや感想：

「・・・と書いてあります。このことから、わたしは・・・と考えました。」

#### 5 新聞を使って、記事の内容の要約や、感想で引用のテクニックを使って文作りを行う。

#### 6 本時の学習で分かったことをまとめる。

### 4 成果と課題

○ 学習の前半では、新聞記事を丸写ししている児童が多かったが、自分の言葉で記事の言葉を変えたり、付け加えたりして紹介できるようになってきた。引用のテクニックを使うことで、自分の考えに根拠を持つことができるようになってきた。

● 新聞記事を要約する中で、元となる文章の漢字の読みの理解に時間がかかった。自ら考えたり、進んで調べたりすることができるようになるように、国語の授業を充実させ、言葉の力を高める必要がある。



【新聞記事を選ぶ児童】

### ⑤ 第5学年の実践

#### 1 教科・領域等

国語 「新聞記事を読み比べよう」

#### 2 単元目標

記事と写真との関係に注意しながら新聞記事を読み比べ、書き手の意図を読み取ることができる。

#### 3 学習の流れ

#### 1 学習のめあてをつかむ。

持ち寄った新聞記事を使って、記事と写真に合った見出しを書こう。

#### 2 新聞の見出しの付け方の特徴をまとめる。

- ・ 短くまとめる。→漢字を多く使う。
- ・ 強い印象を与える。→読み手の目をひく。
- ・ 言葉の順序を入れかえる。

- ・体言止めにする。
- ・助詞「へ」「に」などで終わる。  
→言葉を省略する。

- 3 本文と写真から記事の見出しを考えて書き、意見を交流する。
  - 二人一組になって、それぞれ新聞の中から写真と一緒に掲載されている記事を選ぶ。
  - 選んだ記事と写真を切り取って、相手に渡す。この時、見出しは相手に教えない。
  - 渡された記事を読み、記事の内容と写真に合った見出しを考えて書く。
  - もともと新聞に掲載されていた見出しと読み比べ、それぞれの良さや工夫を考える。
- 4 本時の学習で分かったことをまとめる。

#### 4 成果と課題

- 実際の新聞の見出しと自分で考えた見出しの表現が似ている児童が多く、書き手の意図を正確に読み取る力がつきつつあることが分かり、自信につながった。
- 新聞に苦手意識をもつ児童もいたが、クイズのような今回の活動を通して、楽しく新聞に親しむことができた。「またやりたい。」という児童が多かった。
- 同じ出来事を記事にしても、どんなことを伝えたいかという書き手の意図が異なると、記事の内容そのものが違うということに気付かせるような活動をさらに工夫し、取り入れていきたい。

### ⑥ 第6学年の実践

#### 1 教科・領域等

国語 「新聞の投書を読み比べよう」

#### 2 単元の目標

新聞に多くのジャンルの記事があることを知り、記事について自分の意見や感想をもつことができる。

#### 3 学習の流れ

##### 1 学習のめあてをつかむ。

選んだ記事について自分の意見や感想を書こう。

##### 2 記事の選定をする。

政治・経済・スポーツなど多くのジャンルの記事から自分の興味・関心のある記事を選定する。

印象に残った言葉や文章にはサイドラインを引く。

#### 3 記事の内容を理解する。

分からない言葉が出てきたら自分で辞書を使って調べ、内容を理解する。

#### 4 記事についての意見・感想を書く。

記事を読んで気付いたこと・考えたこと・感じたことなど書く観点を示し、それをもとに意見や感想を書く。

#### 4 成果と課題

- 新聞に触れる機会が増え、社会の出来事に興味・感心をもつようになってきた。
- 休み時間や読書の時間に新聞を読む児童が増え、新聞を身近な読み物として捉える児童が多くなってきた。
- テレビのニュースで話題になっている記事を見付けると、それについて友達同士で互いの意見や感想を伝え合う場面を多く見ることができた。
- 記事に対しての自分の意見や感想が一言で終わってしまう児童が数名いた。
- 新聞に親しんできたことをこれからの学習や生活に生かすために、今後も継続して新聞に触れる機会を継続し、自分なりの意見や感想が言える場を設定していく必要がある。
- 自分の意見や感想に深まりが出てくるように児童同士の意見や感想を交流していく必要がある。

#### 5 おわりに

本年度N I Eの実践を通して、児童が新聞に対して興味関心をもつようになってきた。新聞にふれること・読むことを楽しみ、自分が興味をもった記事について考えや感想をまとめ、それを児童同士で読み合うことで、お互いを知ることにもつながっている。新聞が身近にあることで、休み時間に新聞を手にとって読む児童、友達が興味がありそうな記事を見付けて勧める児童の姿が見られるようになった。

本年度の取組を生かして、来年度は様々な学習の場で、新聞のよさを生かして活動を広げていきたい。